

小児にとって、感染症は最も一般的に遭遇する疾患であり、小児は小学校入学までに数多くの種類の感染症にかかります。また少なくとも 1950 年代までは、呼吸器感染症（肺炎、気管支炎など）や消化器感染症（腸炎など）は乳幼児の死亡原因の第一位を占めていました。十分な栄養状態、環境整備、予防がなされなければ、小児にとって感染症は大きな脅威となります。

感染症の診断技術が進化し、予防接種、抗菌薬、抗ウイルス薬などの進歩がある中でも、お子さんにとって、ご家族にとって感染症はもっとも注意をすべき病気の 1 つです。大切なことは、どのような感染症があり、どのように予防できるか、治療できるか、を知ることです。この領域は日進月歩ですので、ただしい知識を得ていただくことが重要かと思えます。

今回は「子どもの感染症と予防接種」というテーマで企画を組みました。まず大宜見先生には、「かぜ」とは何かを丁寧に解説していただき、6 つの注意すべき感染症を教えてください。多屋先生には、保育施設における感染症の対策として、感染症の広がり方や出席停止期間、消毒方法、予防接種などについて解説していただきます。鳥居先生には予防接種の種類や目的、予防接種が効く原理、副作用などについてわかりやすく解説してもらいます。峯先生には、新しく導入された予防接種として 5 種混合ワクチン、15 価肺炎球菌ワクチンを説明していただき、子どもで問題になる肺炎球菌感染症のことにも触れてもらっています。また予防接種の方法として広がってきた筋肉注射についても説明していただきます。

いずれのビデオでも、少し難しい内容を、わかりやすくコンパクトに紹介しています。お子さんが重い感染症にかからないように、また新しい感染症が出てきたときに備えて、基礎的な知識を得るために、是非この講座をご活用ください。